

# 電気柵使用・管理のポイント

平成29年4月  
群馬県鳥獣被害対策支援センター

## 1. 除草はこまめに！

雑草が伸びて柵線に触れると、漏電して電圧低下の原因となります。効果を維持するためにはこまめな除草が必要です。

除草が難しい場所や除草剤を使えない場所では、防草シートを活用しましょう。防草シートは、必ず通電性のある電気柵専用のものを選びましょう。

【悪い例1】  
柵線が草に埋もれています



## 2. 柵線のたるみ・断線に注意



【悪い例3】  
断線しそう！



【悪い例2】  
柵線がたるんで地面についています

柵線がたるんだり断線していると、隙間から動物が入りやすくなります。また、地面や水たまりに触れると漏電の原因になります。

柵線はピンと張りましょう。柵線の間隔（特に最下段の20cm）はこまめに確認しましょう。

## 3. 電圧を測りましょう！

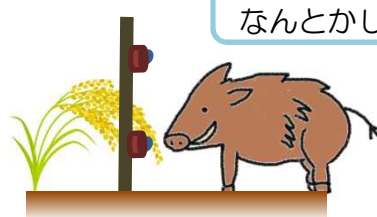
電圧は常に4000V以上を維持しましょう。これ以下だと動物に十分な電気刺激を与えることができません。電圧計を持ち歩き、こまめに確認しましょう。電圧が低い場合は、漏電箇所や断線の点検等しましょう。バッテリーは4～5年を目安に交換しましょう。



## 4. 作物のはみ出しに注意

届きそうな距離に作物があると、柵を突破されやすくなります。また、柵の間から食害される原因にもなります。

柵と作物は近接しないよう、十分な距離をとりましょう。動物に、あきらめさせる事が重要です。



### 共同柵は共同で管理しましょう

電気柵はどこか1カ所でも漏電していると、全体の電圧が低下してしまいます。

効果を維持するために、声をかけあって全員で管理しましょう。定期的に共同管理日を設けるなど、ルールを定めておくと、管理しやすくなります。

ルールの例)

- ・毎月1日は共同点検の日と決め、全員で見てまわる。
- ・週に1回、当番の人が点検する。当番はもちまわり。

